

気球船



第 218 号
平成 20 年 3 月
文 部 科 学 省
初 等 中 等 教 育 局
国 際 教 育 課
編 集 ・ 発 行
初版発行昭和62年12月

海外子女教育総合HP: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

世界の窓

灼熱と歴史の街に息づく小さな学校

ボンベイ日本人学校
校長 舛屋 剛

開校から42年間、大きな変貌を遂げる途上にあるインド・ムンバイの地に、本校はあります。



○ムンバイは

ムンバイは、インド大陸の西部に位置し、アラビア海に面したインド随一の国際貿易都市として1500万人が暮らす街です。かつてはボンベイと呼ばれていましたが、1995年にインド固有の名前ムンバイとなりました。

ナリマン・ポイントは、高層ビルが林立するビジネス街、フォート地区はインド門、タージ・マハル・ホテルなどイギリス統治時代の面影を残す歴史の町。また、インド全土からの長距離列車が発着する主要駅も2つあり、西インドの玄関口として多くの人々でごった返しています。宗教も、仏教徒、ジャイナ教、ヒンドゥー教、キリスト教など様々な宗教が混在しています。そのため、宗教問題を発端とする暴動や、時には爆弾テロなどが起こることもあります。また、路上生活者が道に溢れている一方では、近代化のかけ声の中、スラムをつぶし高層住宅の建設ラッシュ、家賃・物価の異常なまで

の高騰など、この街は、インドの光と陰の部分を抱え込んで渾然とする街であり、インドの歴史と発展を凝縮した街だとも言えます。

○ボンベイ日本人学校は

ボンベイ日本人学校は、このムンバイの中心部から少し離れた、インドの映画の場面にもよく出てくる北西部の海岸沿いのアラビア海に面した住宅地の一角にあります。近くには大きなミルク工場や商店街などがあり、また夕方になると散歩や夕涼みの人々が学校前の海岸通りにやってきて、とても活気に満ちた場所となります。



1年を通して30℃近い気温で、モンスーン期には大きな波しぶきが学校の前まで迫ります。そのような中でも、子どもたちは元気いっぱい、学習や遊びに取り組んでいます。

現在、小学1年生から中学3年生まで17名が、7名の先生(平成19年度)と8名の講師、それに7名のインド人スタッフと一緒に学校生活を送っています。

本校の敷地は、バスケットコート1面分の運動場とコテージを改装した校舎で、こじんまりとしています。そのため、体育は、基礎的な運動は校庭で、上競技場を借りて行い、また水泳指導は会員

制のプールを利用しています。



○日本人会と共につくりあげる学校行事の中で

学校規模が小さいために、子どもたちだけでは運動会や学習発表会にはとても取り組めません。そのため、日本人会の人たちと協力して様々なイベントをつくりあげています。運動会・日本人会桜会の人たちのコーラスもある学習発表会、卓球大会、ソフトボール大会、餅つき大会など、子どもたちにとっては日本の文化に触れる絶好の機会であり、日本人会の人たちにとっても、楽しみに待っていたいただいているイベントになっています。

また、職場見学や進路学習の講師などにも協力をいただいています。



○英語と触れあう時間を多く

どこの日本人学校でも取り組まれている英語・英会話授業。本講でも、インドの先生を講師に授業を行っています。

1・2年生は学年単位で、それ以外の学年は、

習熟度に応じた学習を行っています。また、高学年、中学部の図工・美術も、インド人講師による英語を使ったイマージョンを実施しています。

来年度からは、さらに英語・英会話授業を増やし、出来るだけ英語とふれあう時間を長くしていこうと考えています。

○現地校との交流活動の深まり



モンスーン明けに行うグルモハル祭には、近くのフレンチ校、ジャーマン校、インド現地校の人たちを学校へ招いて一緒に楽しみます。

そこでは、折り紙・ヨーヨー作りなど日本の文化を紹介するお店やそろいの舞祝着に身を包み南中ソーランの披露など、全学年協力して取り組みます。もちろん、保護者会も全面的にバックアップしていただいています。

また、その日だけでなくPDパークでの全校体育の時間を利用したスポーツ交流、交流授業を行う学校訪問など、1年間を通じて交流をし、友達の輪を広げています。プーネにある印日協会の方々とも交流を行い、インドの文化を学び日本の伝統文化を紹介しあう取り組みも行っています。

○基礎・基本的な知識・技能の定着と応用発展的な学習の充実

来年度の重点課題を「基礎基本的な知識・技能の定着と応用発展的な学習の充実」とし、①小学部より学力診断テストの導入、②教科指導における基礎基本の定着・応用発展学習の充実、③英会話授業の充実、④授業時間数の増加などの取り組みを新たに実施していこうと考えています。

また、保護者とのコミュニケーションを深めるための取り組みとして、授業や学校行事を、いつでも参観できるフリー授業参観の実施、学習の到達度や学習の方法などを気軽に相談できる学校環境作りにも積極的に取り組みます。



○チームボンベイが合い言葉

一人ひとりを大切にされた教育、子どもたちの目が輝く学習の保証、それは情熱と熱意に満ちた教員が子どもたちと創り上げる営み。

インドの地での様々なイベント、それは地域としての日本人会の人たちとの協力で創り上げる子どもたちの心に残るモニュメント。

そして、外国の人たちとのふれあい、文化の交流、それは言葉を越えた人と人とのつながり。

これらは、ひとりひとりの子どもたちの成長を願う人たちのヒューマンチェーンであり、魅力あるボンベイ日本人学校創りの原動力になると思います。

大人も子どもも一つになったチームボンベイ、明日に向かってより大きな一歩を踏み出したいと思えます。



トピック

『英語が使える日本人』の育成のためのフォーラム2008』及び「国際教育推進フォーラム2008」開催される

国際理解教育第一係、第二係

○『英語が使える日本人』の育成のためのフォーラム2008

去る3月22日(土)に、文部科学省では、東京ビッグサイトにて『英語が使える日本人』の育成のためのフォーラム2008』及び「国際教育推進フォーラム2008」を開催しました。

「英語フォーラム」は平成15年3月に策定した『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』(以下、「行動計画」という)の進捗状況について報告するとともに、学校教育関係者、企業関係者等が一堂に集い、さらなる英語教育の改善のための具体的な取り組みについて意見交換を行うことを目的として実施されました。

開催当日は英語教育関係者だけでなく、大学生、企業にお勤めの方等の一般の方も含め、約850名の出席がありました。

午前から午後にかけての全体会では、「英語教育優良教育委員会・学校大臣表彰」「行動計画進捗状況報告」「行動計画成果報告」「柴田元幸東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授による基調講演」「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(以下、「SELHi」という)模擬授業」を実施し、午後は「小学校における外国語活動」「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)実践事例」「大学における英語教育」「JET-ALTから見た日本における英語教育」の4分科会を開催しました。

午前に行われた「英語教育優良教育委員会・学校文部科学大臣表彰」は、英語教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められる教育委員会及び学校について、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰することにより、英語教育の改善を促進することを目的として行われています。

平成19年度については、以下の教育委員会及び学校が表彰されました。

深谷市教育委員会(埼玉県)
広島県教育委員会(広島県)
一関市立一関中学校(岩手県)
京都府立園部高等学校附属中学校(京都府)
福山市立福山中学校(広島県)
矢部村立矢部中学校(福岡県八女郡)
青森県立八戸商業高等学校(青森県)
千葉県立成田国際高等学校(千葉県)
福井県立福井商業高等学校(福井県)
奈良県立法隆寺国際高等学校(奈良県)
広島県立加計高等学校芸北分校(広島県)
熊本県立熊本北高等学校(熊本県)

また、その後、平成19年度で終了となる行動計画の進捗状況について大森撰生国際教育課長から報告するとともに、青山学院大学本名信行教授より、行動計画を非英語圏を中心とした諸外国における(外国語)教育政策と比較検討しながら、その成果を国際的観点で評価し、今後の英語教育改善の目標や方向付けについて報告しました。

基調講演では、東京大学大学院人文社会系研究科柴田元幸教授より、「英語が(ある程度)使えることで、人生はどのように楽しくなりうるか」とのテーマでお話をいただきました。

参加者からは、「非常に興味深かった」「英語教育だけでなく、今後生きていくうえでの示唆となった」などの声が聞こえました。

さらに全体会では、SELHiの模擬授業を開催しました。SELHiは、英語教育の先進事例となる学校づくりを推進するため、英語教育を重点的に行う高等学校を指定し、英語教育を重視したカリキュラム開発等を実践研究するものです。今年度のフォーラムでは、平成17年度にSELHi校として指定した神戸市立葺合高等学校から竹下厚志教諭及び普通科(英語系)3年3組(男子14名、女子27名)を迎え、SELHi研究指定の3年間を終えた研究成果を、模擬授業という形で発表していただきました。

葺合高等学校のSELHi研究開発の主題は「普通科生徒を対象にしたプレゼンテーションの活動を通じた、実践的コミュニケーション能力育成のための指導法と評価法に関する研究」でした。本模擬授業は、①国際問題のキーワードを1分間で説明できる、②写真を見てその描写ができる、③リサーチした上で明確にプレゼンテーションができ、簡単な質疑応答ができる、等为目标に行われ、生徒達は、流暢な英語で3年間の成果を十分に発揮し、コミュニケーション能力が育成され、SELHiの研究目標が十分に達成されていることが伺える内容でした。

また、午後の分科会のうち「小学校における外国語活動」では、小学校学習指導要領改訂案の趣旨について説明を行うとともに、小学校段階で期待される外国語活動について意見交換などを行いました。

○国際教育推進フォーラム2008

「国際教育推進フォーラム」は、平成17年8月に出された「初等中等教育における国際教育推進検討報告」で提言されている国際教育について理解と推進を図るために、平成18年度より実施しているものです。

同報告では、国際社会で求められる態度・能力として、全ての子供たちが、

- ①異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力
- ②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立
- ③自らの考えや意見を自ら発信し、行動することのできる態度・能力

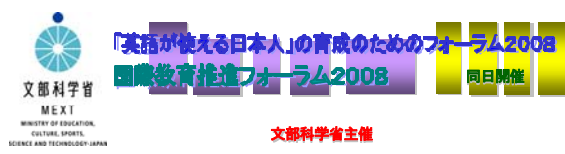
を身に付けることができるようにすべきと述べられており、これらを育成することが国際教育であると言えます。

本フォーラムでは、大森国際教育課長が挨拶を述べた後、以下のプログラムが行われました。

- ①国際教育推進プラン実践報告
- ②地域の特徴を生かした国際理解教育についてのパネルディスカッション

①では、文部科学省が平成18年度より実施している「国際教育推進プラン」の指定を受けた6地域(神奈川県藤沢市、新潟県上越市、三重県津市、大阪府豊中市、北海道東川町、山形県新庄市)より、現在までの取組について実践報告がなされました。国際教育推進プランは、国際教育について先進的な取り組みを行う地域を指定し、NPO法人や大学等と連携して実践研究を行うもので、各地域で特色ある取り組みが行われています。

②では、文部科学省初等中等教育局教育課程課の田村学教科調査官をコーディネーターとして、国際理解教育学会会長である多田教授をコメントーターに、国際理解教育の実践を行っている新宿区立大久保小学校の長岡校長並びに千葉市立打瀬中学校の青木教頭をパネリストに迎え、地域の特性を生かした国際理解教育の実践について、活発な意見交換が行われました。



日時：平成20年3月22日(土)
会場：東京ビッグサイト 会議棟
(江東区有明3-21-1 TEL:03-5530-1111) <http://www.bqsqr.jp/>

「英語が使える日本人」の育成のためのフォーラム2008

平成15年3月に策定した『英語が使える日本人の育成のための行動計画』の取組状況を報告するとともに、学校教育関係者、企業関係者等が一堂に集い、さらなる英語教育の改善のための具体的な取組について意見交換を行います。

【全体会】

- 9:00～9:10 開会挨拶
- 9:10～9:30 英語教育優良教育委員会 学校文部科学大臣表彰
- 9:30～9:45 「英語が使える日本人」の育成のための行動計画」進捗状況報告
- 9:45～10:00 「英語が使える日本人」の育成のための行動計画」成果報告
- 10:00～10:50 基調講演 柴田 元幸 氏
東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 教授
- 11:20～12:30 スマートイングリッシュランゲージ・ハイスクール(SELH)模範授業
神戸市立鎌倉高等学校

【分科会】

- 13:00～15:00
 - ①小学校における外国語活動
 - ②スリー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELH)実践事例
 - ③大学における英語教育
 - ④JET-ALTから見た日本における英語教育
- ※申込み時、①～④のいずれか一つをお選びください。

国際教育推進フォーラム2008

国際教育に取り組む学校関係者による実践報告やパネルディスカッションを通して、国際教育を取りまく現状と課題を紹介します。

15:30～15:40 行政説明

15:40～16:20 実践報告

16:20～17:50 パネルディスカッション

※国際教育とは、国際理解教育などの各分野で蓄積された人材や経験を活用して、「国際化し社会で主体的に行動できる人材の育成」を目指すものです。詳細は、「初等中等教育」における国際教育推進検討会報告」を参照ください。
(http://www.mext.go.jp/ph_menu/shingichoues/shitrou/026/index.htm)

このフォーラムへ参加を希望される方を募集します。

参加を希望する方は、次のURL(<http://www.mext.go.jp/>)からお申し込み願います。(文部科学省ホームページの参加申込みフォームにて、2月25日(月)から登録受付を開始予定です。)
指定のFAX参加用紙での申込も可能です(2月20日(水)から)。ご氏名(フリガナ)、ご職業(役職)、勤務先または自宅住所、連絡先(TEL、FAX、E-mail)、参加希望フォーラム、分科会をご記入の上、お申込みください。
各会場ごとの定員になり次第締め切りますのでご了承ください。
※プログラムは予定であり、今後変更する可能性があります。
<お問い合わせ>
〒100-8969 東京都千代田区霞が関3-2-2
文部科学省 初等中等教育局国際教育課 フォーラム担当 TEL03-5253-4111(内3481, 3480)

特別寄稿

**東海大学附属デンマーク校
最後の卒業証書授与式**

学校法人東海大学 初等中等教育部
部長 杉 一郎

東海大学附属デンマーク校最後の卒業証書授与式を、2008年2月2日にデンマーク・ボーデンボー市(旧プレスト市)の同校体育館で挙行了。当日は、同窓生や地域の方々など約300名が出席し、最後の卒業生となった16名を無事に送り出した。

日本から駆けつけた同窓生の一人は「在籍した者に特別な思いを持たせる学校だった」と、当時は懐かしんでいた。

本校は、東海大学の創立者である松前重義が、若き日に強い影響を受けたデンマークの思想家であり教育者であるN.F.S.グルントヴィの生誕地に近い当時のプレスト市に、1988年4月、文部科学省より在外教育施設の認定を受けた全寮制海外校として開校した。

東海大学創設の原点は、敗戦で疲弊したデンマークを教育によって再生することを提唱したN.F.S.グルントヴィゆかりの国民高等学校にある。ここでは、教員と生徒が寝食をともにして、知識のみではなく人生いかに生きるべきかを学ぶ場として、国民の意識改革から国を再生させるという試みが行われ、戦後のデンマーク復興に大きな影響を与えた。

本校は、開校当初から教員と生徒が共に生活する全寮制の学校として、主に在欧邦人の子女教育に取り組んできた。地域住民や地域社会も、学校や生徒を暖かく受け入れてくださり、生徒の国際性や自主自立の精神を養い、一人ひとりの個性と創造性を育む教育が展開されてきた。

北欧の緑豊かな環境に恵まれ、大自然や欧州の文化を身近に感じられる学生生活を謳歌した本校卒業生は、これまでの20年間で約440名になる。

本校での毎日は、国内の教育機関にはない家族的な雰囲気には溢れていた。休日には、敷地内に居住する教員宅を生徒が訪れ、一緒にショッピングに出かけるなどの光景もよく見られた。生徒が中心となって日本文化を紹介するオープンスクールや近隣の家庭に宿泊するホームステイなどを通じて、国際的な視野を持った人材の育成に取り組んできたが、近年、日本企業の欧州駐在事情の変化などから生徒数が減少し、邦人子女教育の拠点としての役割にひと区切りがついたとの判断により閉校することとなり、卒業生や保護者からは閉校を惜しむ数多くの声が届けられた。

これまで、関係各位のご理解とご支援をいただいた東海大学附属デンマーク校であったが、その大きな教育の成果と教育的使命を果たしての閉校であり、関係各位に心から御礼申しあげたい。

また、広大な敷地と施設設備は、本校閉校後もデンマークの国民高等学校として活用する計画が着々と進行しており、創立者の理想を将来に継承する教育機関として発展が期待されている。

本校は2007年度をもって閉校するが、1970年に東海大学の欧州における拠点として首都コペンハーゲン郊外に設立した東海大学ヨーロッパ学術センターを中心に、今後も欧州における国際・文化交流や国際教育学術交流等を積極的に推進していく所存である。



国際教育課でのインターンシップを終えて

春期インターンシップ生
浅川 希望

「灯台下暗し」。文部科学省でのインターンシップを経験するまで、私はまさにこの状態でした。教員志望で、教育に興味があり、特に教育については知っている方だと思っていましたが、全くの過信でした。そんな私は、このインターンシップを通して、多くのことを肌で感じ、学べたのではないかと思います。

このインターンシップとの出会いはほとんど偶然でした。ある説明会でその存在を知り、興味を持っていたところ、たまたま学内掲示版で募集のお知らせを見つけ、応募を決意しました。教員になりたい私にとって、日本の教育の原点ともいえる文部科学省を見て知るいい機会になると思い、また、インターンシップそのものを経験したことがなかったので、就業体験をして、自分の経験値を上げるという点でも、自分のためになると思いました。国際教育は、大学での専攻であり、以前から関心を寄せていました。志望していた国際教育課に配属していただき、国際教育に関わるいろいろなことを知ることができ、大変感謝しております。

国際教育課での私の主な仕事は、SELHiの予算チェック、英語フォーラムの資料作成、上映用のパワーポイント作成、外国人児童・生徒に関する調査結果の入力でした。パソコンや電卓と格闘する日々が続き、疲れもしましたが、この作業がどこかで子供につながっている、国全体を動かしているというやりがい、私を支えていたように思います。職員の方とお話する中でも、このようなことを何度かお聞きし、やりがいからくるエネルギーの強さに驚きました。

仕事をしていく中で感じたことは、他にもあります。所狭しと並んだ書類とパソコン、さらには電話を相手に、黙々と真剣に仕事をする職員の方々から、仕事の大変さ、責任の重さがじわりと伝わってきました。自分自身も、英語フォーラムの冊子

作成に携わるにあたり、冊子が会場で配布されることを考えると、責任を背負っているという実感を持ちました。それぞれが責任を持っている中でも、職員の方々は互いにアドバイスし合ったり、声を掛け合ったりしており、協力することの大切さやコミュニケーションがいかに重要かを再認識できました。今回私はインターンシップ生としてお仕事をさせていただきましたが、もう少し自主的に何かできればよかったなと感じています。自分が何を考え、どんなことをしたいのか、皆が意見を出し合うことで、より良いものが生まれます。そのためには、能動的に動き、自ら発信していくこと、そして相手の話を良く聞くことが欠かせません。そのためにもやはり、コミュニケーションが大事になってくると思いました。

お仕事をしていく中で、国際教育について今まで自分が知識として知らなかった施策、制度についてもたくさん知ることができました。と同時に、自分がまだまだ知らないことはたくさんあるのだと痛感しました。

教員志望だった私は、教育現場や子供が一番と考えていましたが、国全体を把握し、まとめていく人や組織がなければ、現場も子供もやっていけません。今回初めて、文部科学省の、そして行政の重要性を認識することができました。職員の方に、行政と現場は全く違う、そしてなかなか相容れないという話をお聞きしましたが、なんとなくわかったような気がしました。そして、子供主義を貫いてきた自分の視野の狭さに恥ずかしさを覚えました。地味に見えた調査や作業も、結果として教育全体に関わる大切なことなのです。国際教育を学ぶ学生として、視野の広さやいろいろなことに気配りできることは不可欠だと感じます。

今の日本にはたくさんの外国人が、海外には日本人学校や現地校、補習校で学ぶ子供やその家族がいます。広く物事を捉えること、違いに敏感になること、人の気持ちに思いを馳せることを常に心がけていきたいと思いました。そして、まずは日本の子供たちに、世界のことを知って欲しいなと思いました。国際教育は、まだまだ発展途上です。つまり多くの可能性をも秘めています。

国際教育課では、国際理解教育については、モデル校をアピールするなどの政策が行われ、英語教育については、小学校での英語教育への

準備が進められています。この件については賛否両論ありますが、横浜の小学校視察に同行させていただき、活気ある授業を楽しそうに受ける児童を見ていたら、可能性を感じずにはいられませんでした。多くの問題があることは十分承知していますが、なんとかならないものかと切に感じました。今回のインターンシップで、進路についてまた迷いが出てきましたが、どういう形にせよ教育には携わりたいので、この可能性をできるだけつぶさないよう努力したいと思います。様々な利害を調整する行政の立場は本当に厳しいものだと、この2週間で少しだけわかったので、もし教員になったら、その時は、今回のインターンシップを思い出そうと思います。

今回の貴重な2週間の糧に、常に周囲を意識し、目的意識をもって、これからの日々を過ごそうと思います。テレビ欄にしか興味のなかった私ですが、最近では新聞を全て見るようになりました。今回参加させていただいた英語フォーラムには、来年も参加しようと考えています。幅広く知識を蓄え、日本と世界の流れを知るとともに、自分の頭で考え、悩むことを怠らず、何事にもチャレンジし、視野の広いグローバルな社会人を目指していきたいです。

たくさん教えていただき、優しくしていただいた国際教育課の皆様へ感謝申し上げます。



事務連絡

平成20年度前期用教科書の送付について

庶務・助成係

文部科学省では、海外子女教育の推進をはかるため、外務省の協力を得て、海外在住の義務教育年齢の日本人子女に対し、教科書を無償で給与しています。

平成20年度前期用教科書については、現在発送作業を進めており、今後、在外公館を通じて対象者に無償給与されることとなります。

今回の送付冊数は小学校用および中学校用の総計で516,949冊です。また、給与形態については、巻末資料の「教科書給与形態一覧<前期用>」の通りです。

なお、後期用の教科書についても巻末資料に「教科書給与形態一覧<後期用>」を添付しておりますのでご覧ください。



日本人学校運営委員会の役員変更に係る届出について

企画調査係

年度の変わり目にあたり、役員交代が出てくると思います。

役員に変更があった場合には、「在外教育施設の認定等に関する規程」に基づく変更届出が必要ですので、様式第8号（「在外教育施設派遣教員の手引（平成20年1月）」の P.186参照）に以下の書類を添え、企画調査係までご提出ください。

<必要添付書類>

- ・変更内容（新旧対照表）
- ・決議録
- ・役員の名簿
- ・新役員履歴書

よろしく願いいたします。

編集後記

小学校の頃、とても仲の良かった友人がいました。文字通り何をするにも一緒だったほど仲の良かった子だったのですが、彼女の転校を機に少しずつ疎遠になり、10年ほど前からはまったく連絡も取れなくなってしまっていました。

そんな彼女と、先日、約18年ぶりに再会しました。それは、彼女にたどり着くまでに4人もの人を介した、偶然に偶然を重ねた再会でした。

人の縁とは本当に不思議なものです。

どんなに遠くても出会う人には出会う一方で、毎日のようにすれ違っていたとしても、縁がなければ一生知り合うことはありません。

今回の再会も、「運命」という言葉を使うのはいさか大げさですが、人と人とのつながりには何か大きな力が働いているのではないかと思わざるをえない出来事でした。

4月、新しい縁が生まれる季節です。忙しい毎日の中にあっても、これまで出会えた縁とこれから出会う縁、どちらも大事にしていきたいものです。

さて、最後になりましたが、今月号の気球船は企画調査係が担当しました。

新年度もどうぞよろしく願いいたします。

(S. Y)

国際教育課「気球船」編集部

本誌へのご意見、ご感想をお待ちしています。下記までご連絡ください。
連絡先: kokukyo@mext.go.jp

こちらにも随時募集中です。

- 投稿記事
(原稿料は出ません。ご了承ください。)
- 新規配信依頼



○お願い○

- ・本誌は、回覧、転送等して、多くの方でご覧ください。
- ・特に断り書きのない記事については、転載は自由です。



～～3月号の内容～～

【世界の窓】 —————	1
○灼熱と歴史の街に息づく小さな学校 -----	1
ボンベイ日本人学校校長 舛屋 剛	
【トピック】 —————	3
○「『英語が使える日本人』の育成のための フォーラム2008」及び「国際教育推進フォー ラム2008」開催される -----	3
国際理解教育第一係、第二係	
【特別寄稿】 —————	5
○東海大学付属デンマーク校 最後の卒業証書授与式 -----	5
学校法人東海大学 初等中等教育部 部長 杉 一郎	
○国際教育課でのインターンシップを終えて -----	6
春期インターンシップ生 浅川 希望	
【事務連絡】 —————	8
○平成20年度前期用教科書の送付について -----	8
庶務・助成係	
○日本人学校運営委員会の役員変更に係る届 出について -----	8
企画調査係	
編集後記 —————	8
【参考資料】 —————	10
○平成20年度教科書給与形態一覧(前期用) -----	10
○平成20年度教科書給与形態(後期用) -----	11

教科書給与形態一覽<前期用>

	小学部						出版社
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
国語	○	○	○	○	○	○	光村
書写	○	○	○	○	○	○	光村
社会			○		○	○	東書
地図				○			帝国
算数	○	○	○	○	○	○	東書
理科			○	○	○	○	大日本
生活	○						東書
音楽	○	○	○	○	○	○	教芸
図画工作	○		○		○		日文
家庭					○		開隆堂
保健			○		○		学研
冊数/人	6	4	8	6	9	6	

	中学部			出版社
	1年	2年	3年	
国語	○	○	○	光村
書写	○	○		光村
地理	○			東書
歴史	○			東書
公民			○	東書
地図	○			帝国
数学	○	○	○	東書
理科(一分野)	○	○		東書
理科(二分野)	○	○		東書
音楽(一般)	○	2冊※		教芸
音楽(器楽合奏)	○			教芸
美術	○	2冊※		日文
保健体育	○			学研
技術・家庭(技術分野)	○			東書
技術・家庭(家庭分野)	○			東書
英語	○	○	○	東書
冊数/人	15	10	4	

※上巻及び下巻

出版社 光村・・・光村図書出版株式会社
 東書・・・東京書籍株式会社
 帝国・・・株式会社帝国書院
 大日本・・・大日本図書株式会社
 教芸・・・株式会社教育芸術社
 日文・・・日本文教出版株式会社
 開隆堂・・・開隆堂出版株式会社
 学研・・・株式会社学習研究社

教科書給与形態一覽＜後期用＞

	小学部						出版社
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
国語	○	○	○	○	○	○	光村
社会			○		○	○	東書
算数		○	○	○	○	○	東書
理科				○	○	○	大日本
生活	○						東書
図画工作	○		○		○		日文
給与冊数	3	2	4	3	5	4	

出版社 光村…光村図書出版株式会社

東書…東京書籍株式会社

大日本…大日本図書株式会社

日文…日本文教出版株式会社